

高齢者総合内科専門医養成コース

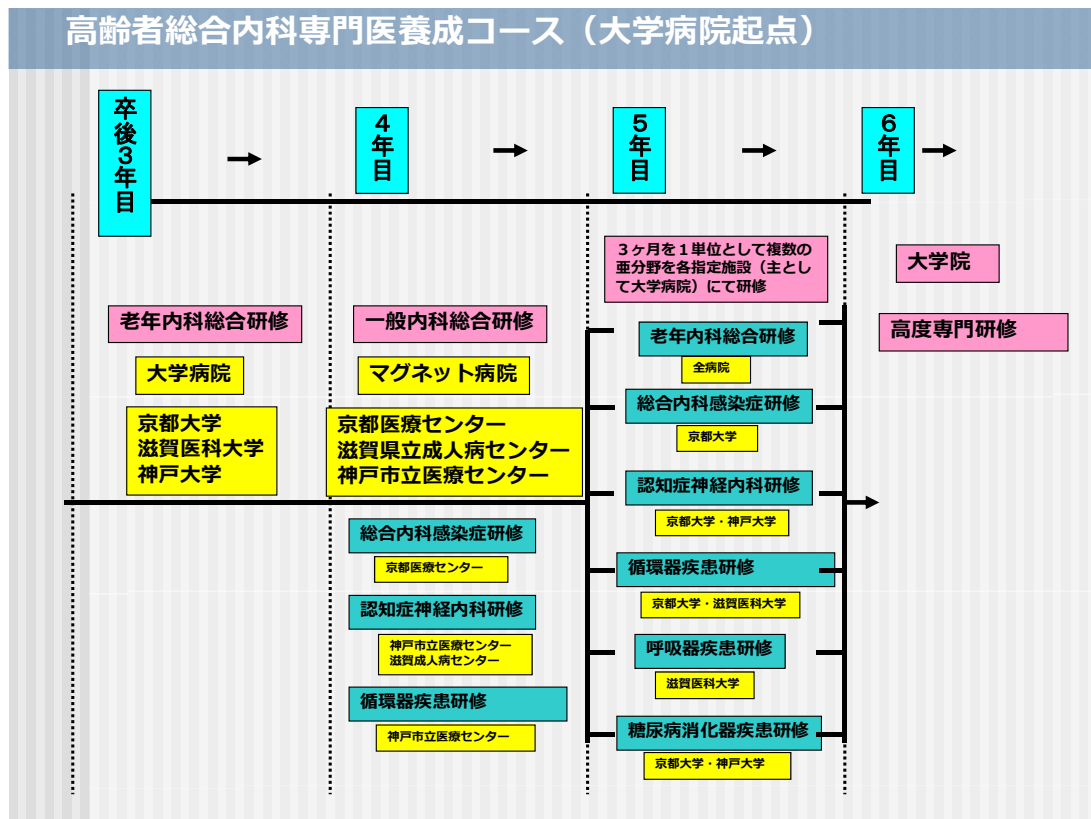
大学病院起点コース、マグネット病院起点コース、大学病院重点コース

I. コース概要

卒後臨床研修終了者を対象とした、老年内科医、一般総合内科医の育成を目的とする研修コースである。研修を開始する施設により大学病院起点コースとマグネット病院起点コース、および大学病院での研修を中心にマグネット病院での経験も行う大学病院重点コースがある。本コースには、京都大学、滋賀医科大学、神戸大学、京都医療センター、滋賀県立成人病センター、神戸市立医療センター（循環器内科、神経内科）の六施設七診療科が参加する。各施設がプログラムを共有して、老年病専門医、総合内科専門医あるいは臨床研究者の育成を目指す。消化器、循環器、神経内科、糖尿病、呼吸器などのサブスペシャリティの専門医の修得にも配慮する。

II. コース全体像

高齢化による疾病構造の変化、多様化・複雑化した国民の医療ニーズに応え、幅広い臨床能力を身につけた臓器横断的な専門医の養成を目指す。本コースを研修することで、内科認定医、総合内科専門医、老年病専門医の取得に必要な症例を経験できる。以下に例として高齢者総合内科専門医養成コース（大学病院起点）のコースマップを示す。



III. コース参加施設の概要

コース名：高齢者総合内科専門医養成コース					
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	目的	養成 (受入) 人数	期 間
京都大学	老年内科	老年内科	高齢者の総合内科学の 研修	2	2～3年
滋賀医科 大学	呼吸循環器内 科	循環器内科 呼吸器内科	循環器・呼吸器疾患の 研修	1	2～3年
神戸大学	老年内科	老年内科	高齢者総合内科学、糖 尿病、認知症の研修	1	2～3年
京都医療セン ター	総合内科	総合内科	救急疾患、感染症、総 合内科の研修	1	1年以下
滋賀県立成人 病センター	老年神経内科	老年神経内科	高齢者の神経内科学の 研修	1	1年以下
神戸市立医療 センター	循環器内科 神経内科	循環器内科 神経内科	高齢者の循環器疾患・ 神経疾患の研修	1	1年以下

IV. コース参加施設の特徴

1) 京都大学老年内科

高齢者の様々な内科系疾患の救急、入院検査・加療、リハビリ・地域連携など通じた退院援助などを経験する。高齢者特有の病態生理や安全な薬物療法を習得する。高齢者総合的機能評価の概念を理解し、自ら運用できるようにする。高齢者の総合内科外来、アンチエイジング外来、もの忘れ外来などの外来診療や、救急部を含めた院内他科と連携した診療の経験と診断手技（腹部エコー、心エコーなど）の修得を目指す。

2) 滋賀医科大学呼吸循環器内科

高齢者の循環器・呼吸器疾患を中心に多数の症例を経験する。高齢者救急現場で重要となる心電図診断、心エコーのトレーニングを行うとともに、心臓カテーテル、不整脈治療の研修も行う。消化器内科、神経内科、代謝内分泌内科、腎臓内科などとも連携した診療を経験する。

3) 神戸大学老年内科

高齢者診療を通じて、内科学全般にわたる総合的な理解力を磨くとともに、高齢者の生理学的・病態的特徴を理解する。内科・老年病の専門医の他、糖尿病、消化器、神経内

科の各専門医の指導を受けることもできる。今後、老年内科、神経内科、精神科が横断的に診療にあたる認知症センターの稼動にともない、同センターでの研修も可能になる予定である

4) 京都医療センター総合内科

ER からの入院患者を担当することを通じて、高齢者の意識障害の診断、水電解質・酸塩基平衡の異常の診断・管理、尿路・呼吸器・軟部組織などの急性感染症への対応、呼吸・循環の複合した急性増悪の管理、栄養管理などを学ぶ。同時に、急性期を脱した高齢者の地域連携、栄養療法なども学ぶ。

5) 滋賀県立成人病センター老年神経内科

もの忘れ外来を通じて、多数の認知機能障害・認知症の症例を経験する。問診、身体的所見、認知機能検査、画像検査などを研修し、自ら認知症患者を診断・管理できるようにする。薬物療法だけでなく、非薬物的療法も経験し、総合的な患者管理ができることをめざす。

6) 神戸市立医療センター中央市民病院神経内科

脳血管障害、急性意識障害を中心とする高齢者神経救急を多数経験する。これらの患者は循環器、代謝疾患を合併することも多く、内科系全般を網羅する複合的な病態に対応できる力を習得する。脳波、頸部血管エコーなどの検査も習得する。また、外来診療を通じて、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患の管理を習得する。

7) 神戸市立医療センター中央市民病院循環器内科

多数の高齢者循環器救急を通じて、急性冠症候群、急性心不全、慢性心不全急性増悪などを経験する。動脈硬化性疾患の危険因子を多数保有する症例や慢性腎臓病、肺炎など合併する症例など複雑な背景を有する場合も多く、自宅退院が困難な症例も多いため、地域連携の重要性も学ぶ。心臓カテーテル、不整脈治療など循環器系の基本的な検査・手技も習得できる。

V. コース全体を通じて経験する疾患・病態の一覧

1. 高齢者ADLの急性低下を引き起こす疾患
2. 記銘・認知障害、認知症、せん妄、脳血管障害など
3. 生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧、慢性腎臓病、骨粗鬆症など）
4. 高齢者感染症（呼吸器・尿路感染症、膿瘍、軟部組織感染症など）
5. 浮腫を来たす種々の病態（急性および慢性腎不全・心不全、血管炎、静脈瘤など）
6. 高齢者心疾患（心不全、急性冠症候群、弁膜症、不整脈など）
7. 高齢者消化器疾患（消化管出血、肝硬変など）
8. 高齢者に多い免疫疾患（PMR、関節リュウマチ、PSS など）
9. 高齢者に多い悪性疾患（悪性リンパ腫、消化器腫瘍、肺がんなど）

10. 歩行障害などの老年症候群
11. 低栄養、嚥下障害
12. 脳血管障害、意識障害（てんかん、脳炎など）
13. パーキンソン病などの神経難病
14. 肺塞栓症、深部静脈血栓症、慢性閉塞性動脈硬化症
15. 高齢者の水電解質、酸塩基平衡の異常
16. 糖尿病および糖尿病合併症

老年医学会の定めるコアカリキュラムを一通り研修できるように配慮する。

VI. コース全体を通じて経験する場面・手技・概念などの一覧

1. 初診・救急部と連携した高齢者救急一般
2. 初期診断を行うための心電図、心エコー、腹部エコーの習得、CT 検査の解釈
3. 認知症に関する画像検査（CT/MRI/SPECT/PET）、認知機能検査などの実施と解釈
4. 在宅医療を視野に入れた高齢者総合的機能評価の実施と解釈
5. 予防医学的な観点から骨密度測定、頸動脈エコー、脈波検査の習得
6. 高齢者医療におけるアンチエイジングの概念の理解
7. リハビリ、多職種チーム医療、退院支援、在宅ケア、介護保険の枠組みを習得
8. 高齢者における安全な薬物療法の習得
9. 栄養療法、栄養管理手段の習得
10. 糖尿病ならびに合併症の評価・管理（振動覚計、神経伝導速度なども含む）
11. 脳血管撮影、脳波判読、筋電図、嚥下機能評価
12. 心臓カテーテル検査・心臓核医学検査・負荷心電図・冠動脈 CT、心臓 MRI
13. 心臓カテーテル治療、ペースメーカーや植え込み型除細動器植え込み

VII. コース別の概要

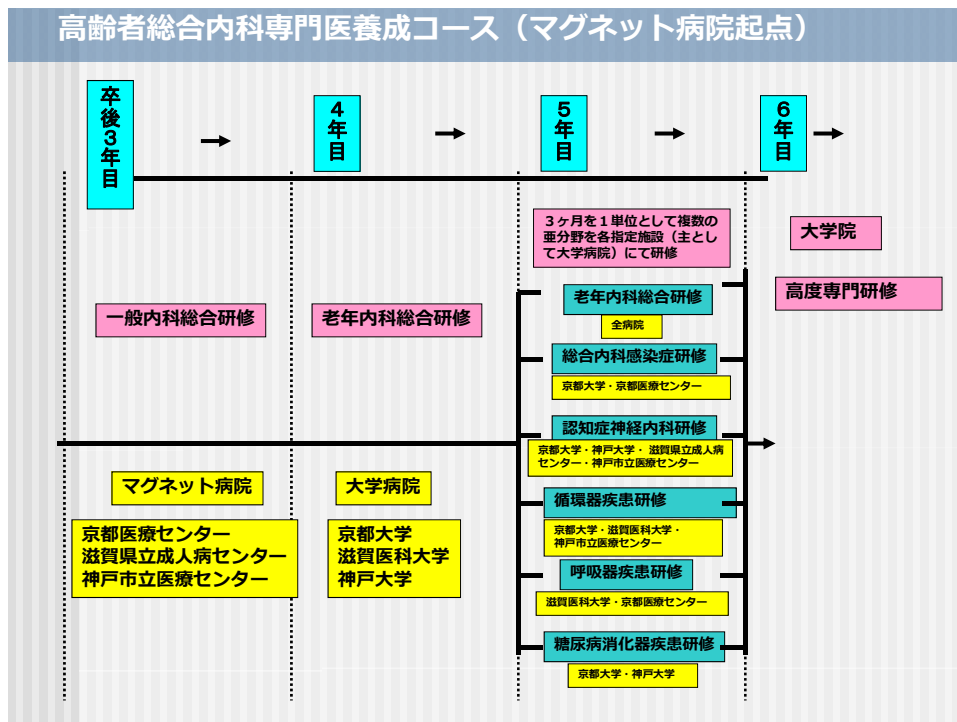
- 1) 高齢者総合内科専門医養成コース（大学病院起点）（コースマップは II. コース全体像参照）

まず大学病院（京都大学、滋賀医科大学、神戸大学）にて、高齢者症例を多数経験し、高齢者の病態を理解するとともに高齢者総合的機能評価、地域連携、高齢者の薬物療法などを理解する。そののち、マグネット病院において総合診療あるいはサブスペシャリティーとなる神経内科、循環器内科、認知症などを習得する。更に、5年次においては、それまでの研修に補完したい内容の強化などを行う。コースマップは代表的な進路を示すが、一つの施設に在籍する期間は調整が可能である。

- 2) 高齢者総合内科専門医養成コース（マグネット病院起点）

卒後臨床研修を終えたのち、先ずマグネット病院（京都医療センター、神戸中央市民病院、滋賀成人病センター）にて、内科全般あるいは神経・循環器などを中心とした内科系

診療の研修を行う。地域医療の基本的概念も学ぶ。そののちに主として大学病院において、高齢者総合的機能評価、診療科横断的な診療、参加大学の特性に基づいた専門医取得に必要な症例の経験などを行う。コースマップを以下に示す。



3) 高齢者総合内科専門医養成コース（大学病院重点）

卒業後臨床研修後、大学病院にて2年間の研修を行った後、5年次において、マグネット病院での研修を行う。

